

令和2年度入隊予定者 各地に旅立つ

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己1等空佐）は3月24日（火）、本部庁舎（静岡市）において、陸上自衛隊武山駐屯地（神奈川県横須賀市）への入隊予定者20人の見送りを実施した。

雲一つない春空のもと、静岡県中部地区から陸上自衛隊一般曹候補生として入隊予定の若者たちが、これからの自衛官人生への期待と不安を胸に、家族とともに続々と集まった。

午前7時、家族が旅立ちを見守る中、時折笑顔を見せつつも緊張した面持ちの入隊予定者たちは、見送り行事で司会を務める募集班長・土屋竜也3等陸佐の集合の言葉を合図に、これから自衛官として同じ志を持つ同期たちと自然と整列した。間もなくして宮川本部長の激励の言葉が始まると、全員が自ずと姿勢を正し、既に自衛官としての心構えが芽生えはじめていた。

宮川本部長は「自衛隊は国内のみならず国外でも活躍している。努力は決して自分を裏切らないので、常に目標を持ってコツコツと努力してほしい。また、これまでの自分の価値観が訓練を阻害する。一度その価値観は横において、とにかくチャレンジすることが重要。そして苦しくなったら隣にいる同期と支え合って乗り越えてほしい。今後の活躍を期待している」と激励の言葉を送った。

入隊予定者は、力強く見守る家族をはじめ、友人、本部職員、担当広報官からの盛大な拍手とエールを受けて大型バスに乗り込み、武山駐屯地へと旅立っていた。

静岡地本は引き続き入隊予定者やその家族のサポートに努め、入隊予定者が一日でも早く一人前の自衛官に成長できるよう見守っていく。



新たな一歩を踏み出した自衛官候補生にエール

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己1等空佐）は4月4日（土）、陸上自衛隊富士駐屯地（駿東郡小山町）で行われた「自衛官候補生入隊式」に参加した。

例年であれば、我が子の凜々しい制服姿を楽しみに多くの家族の列席があるところ、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため今年は規模を縮小し、新入隊員及び教育基幹要員のみでの入隊式となった。

式では、少し緊張した様子ながらも、凜とした表情の自衛官候補生58人が宣誓を行った。教育担任官の特科教導隊長・黒瀧隆志1等陸佐は「平和を守るといふ崇高な使命を持つ自衛隊へ、自らの意志で入隊した高い志に、心中より敬意を表する」と述べるとともに、「自ら進んで教育に臨め、同期の絆を深めよ」との要望事項を挙げ、「共に学び、助け合い、立派な自衛官となることを期待する」と激励した。

式が終わり、静岡県内出身の新入隊員2人は「同期がいるので楽しく過ごせています」と笑顔で話し、「裁縫がうまくできず、苦戦しています」と、自分で制服に縫い付けた自衛官候補生徽章を見せてくれた。広報官が「まずは健康に気を付けつつ頑張ってください」とエールを送ると、力強い声で「頑張ります」との逞しい返事を聞くことができた。

静岡地本は、今後も入隊者との連携を図り、先輩自衛官として後輩をサポートしていく。

